

【研究開発の名称】「がんばらない介護」を実現するIoT支援ツールの開発(2015年度採択課題)

■ 開発の経緯・概要

- 日本は既に世界最長寿命国であり、老後の時間が長く、特に健康寿命と実寿命の差が大きいと言われている。高齢者の増加に伴い介護ニーズが高まる中、少子化、介護従事者の不足は加速していく。介護者の時間的、精神的、肉体的負担は既に限界を超え、介護による離職も大きな課題になっている。
- ICT及びIoT技術を用いてこの社会課題解決に挑戦し、「健康寿命の延伸」「自立化」「人手をかけない介護」を目指し、介護者、家族、被介護者が安心して生きていける社会の実現に貢献したいという思いから、介護支援システムおよび非接触型バイタルセンサーを開発。居室内に設置されたセンサーデータをクラウドで解析し、介護従事者にスマートフォン経由で状況を伝え、異常発生時はアラート発報することが可能である。

■ 現状の成果

- スマートフォンアプリから直感的UIをもつ「LiveConnect Facility」へ機能拡張
- 夜勤スタッフの負荷軽減に効果（近くまで寄らなくても呼吸されていることがわかり、不用意に起こしてしまい、眠れなくなるなど余計な作業が減る）
- 国内130の施設に導入実績・海外での実証実験もスタート



■ 会社概要

	設立時 2015年4月	採択時 2015年12月	現在 2018年4月
資本金	9百万円	62百万円	312百万円
従業員数	0人	0人	23人

■ I-Challenge!活用による成果

【PoCの成果】

- 初期プロトタイプにて、3箇所の介護施設で実際の高齢者の身体と介護ベッドの組み合わせにてデータを収集。
- 施設スタッフにシステムの訴求ポイントをヒアリングし、介護支援システムが現場でどのように使われるのかを確認。
- スタッフへの通知回数を減らす必要性を認識。
- スマートフォンでの通知ではスタッフ作業負担が改善しないため、意識せず確認できるサイネージの有効性を確認。

【I-Challenge! ここがすごい！】

- I-Challenge!の採択事業ということで、PoCのフィールドを提供してもらい介護施設の理解が得やすかった。
- I-Challenge!採択のスタートアップであることをアピールでき、資金調達に繋がった。
- 高速でPDCAを回せたことは大きな成果である。

【事業化支援機関からの支援内容】

【事業支援機関：(株)ケイエスピー】

- 出資
- 事業会社の紹介
- 介護市場についてのアドバイス

(注)採択企業名・事業化支援機関名は採択時のもの。